

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2590100372		
法人名	医療法人社団 洛和会		
事業所名	洛和グループホーム瀬田 (2階)		
所在地	〒520-2141 滋賀県大津市大江3丁目6番5号		
自己評価作成日	令和元年8月10日	評価結果市町村受理日	令和元年12月29日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/25/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&ligvovocd=2590100372-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 市民生活総合サポートセンター		
所在地	〒530-0041 大阪市北区天神橋2丁目4番17号 千代田第1ビル		
訪問調査日	令和元年10月10日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

地域との交流に力を入れ、地域行事に積極的に参加するようにしています。毎朝町内への散歩を実施し近隣住民とご利用者の交流も図っております。また、昨年度は瀬田中学校の生徒の職業体験の受け入れも行い若い世代の方も認知症に興味を持ち理解を深められるように働きかけております。日々の生活では、開所より5年が経過しご利用者の重度化に伴い行事での外出が難しくなっておりますが季節ごとに部屋飾りを代えたり季節の食材を使った食事を提供する事で四季を感じていただけるよう努力しております。また、個別での外出行事を計画する事で個別のニーズにあった外出計画を立てられ今ご利用者様がしたいことを個別で実現する事ができております。食事も若い職員が利用者の方に教えて貰い、また無理のない範囲で手伝っていただきながら賑やかに作っています。何が出来るか・どこをサポートするかを探りながら、理念の「し・じ・み」信頼し合い・自分らしく・皆イキイキ楽しい我が家を目指し、入居者・職員ともが楽しく我が家のように過ごしていけるようにと、日々努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当該事業所は地域交流を大切にしており、散歩の際には近隣の方と挨拶を交わしたり野菜の差し入れをもらう等普段からの近所付き合いを行うと共に、回覧板や運営推進会議で地域の情報を得て自治会のふれあいサロン等に出掛けています。地域の中学校で職員が認知症サポーター講座を開催し認知症への理解に努め、また、事業所で中学生の職場体験を受入れたり、事業所のメディカルフェスティバルには多くの地域の方に参加してもらう等、地域との交流を深め良好な関係を築いています。職員は家事や体操、切り絵などの壁画作り、漢字や計算ドリル等利用者の出来ることを見出しその人らしく暮らせるよう支援しています。また、統一した支援をすることで、車椅子を使用している方が歩行訓練の結果歩行出来るようになる等、利用者の自立支援に向けて取り組んでいます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	洛和会の理念を朝の申し送り時に唱和し共有している。また、GH独自の理念も玄関やフロアの見えるところに飾り、職員が意識できるようにしている。	事業所開設時に関わった職員が作成した独自の理念をフロア入口やフロア内に掲示し意識付けを行っています。理念は職員の入職時に説明をし、毎月のカンファレンスで利用者が自分らしく生き生きと暮らしていくにはどのようにすればいいのか職員間で話し合い、理念の実践に向けて取り組んでいます。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事(自治会のふれあいサロンに参加している。またほぼ毎日散歩に出かけ、近所の方から声を掛けていただいている。	自治会に加入し回覧板や運営推進会議で地域の行事等の情報を得て、ふれあいサロン等へ利用者と参加し、毎日の散歩時には近隣の方と挨拶したり野菜をもらう等、日常的な交流の機会を多く持っています。近隣の中学校の職場体験の受け入れや中学校での認知症サポーター講座を職員が受け持つなど学校との関わりも持っています。また、秋のフェスティバルには近隣の方達を招き地域との交流を深めています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	6月には石山中学で認知症サポーター講座を共同開催したり、洛和会の他サービスと共にメディカルフェスティバルを年1回開催して事業所・認知症のことを知って貰った。去年に引き続き11月には瀬田中学校の職場体験受け入れ予定		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	奇数月に開催し、地域関係者に参加いただき質疑応答や意見交換・イベントなどの情報交換を行い、サービス向上につなげている。身体拘束委員会も兼ねている。	会議は2か月に1回家族や自治会役員、民生委員、地域包括支援センター職員等の参加の下開催し、利用者の状況や活動報告、行事予定等の連絡、事故報告や対応策等を伝え意見交換をしています。また、外出先の情報をもらい実際に出掛ける等、会議を運営やサービスの向上に反映しています。会議の案内や議事録は全家族へ送付し内容を知らせています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域包括支援センターから運営推進会議に参加していただき、その他でも情報の共有や相談をしている。行政主催の研修には勤務を調整し参加。	運営上の手続きや不明点等の確認等でケアマネジャーが行政の窓口を訪問しています。行政からは研修の案内が届き、必要に応じて参加し協力関係を築くように努めています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人単位で研修を受け、できる限り職員全員に一年に一回は参加を促し参加できないときは事業所で伝達研修を行っている。防犯・安全の面からドアベルは使用しているが、玄関も夜間の防犯の目的以外で施錠していない。	年1回法人の身体拘束に関する研修に代表職員が参加し全職員に内容を伝達しています。家族の了解の下、安全上センサーを使用する利用者があり、必要性についてはカンファレンスで検討しています。不適切な言葉かけが見られた場合は都度管理者や職員間で注意しています。日中は玄関を開放しており、外出希望の利用者には職員が付き添い散歩に出掛けています。	

洛和グループホーム瀬田 (2階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人単位での研修を受け、事業所で伝達研修を行っている。ケガや皮下出血の有無確認、原因を共有し把握に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	法人単位での研修を受け、事業所で伝達研修を行っている。成年後見人制度を利用している利用者も居る。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所時・改定時に説明を行い、同意を得ている。その場や後日の質問や疑問点も伺い、不明確なところは上長に確認して対応している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に御意見箱を設置している。また、年1回の家族アンケートも行っており、その結果をご家族様に報告し運営に反映している。	利用者からの要望は日々の関わりの中で聞き、希望する食事を提供する等出来ることは都度対応しています。家族の意見や要望は年1回の満足度調査や面会時、運営推進会議等で聞いています。家族から外食する際店選びについて意見を聞き、店を検討して実際に店とも交渉して食べやすい物を提供してもらう等、意見をサービスに反映するように努めています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	副所長が週1回ペースで回り、意見や相談を受けている。また、毎月会議を開催し意見を聞いたり事前に確認したりして、業務改善を行ったりと反映している。	毎週の副所長の来訪時や月1回のカンファレンス、日々の中で随時職員の意見や提案を聞き、カンファレンスに不参加の職員には事前に口頭で意見を聞いています。業務の整理についての提案を受け、職員間で話し合い業務改善に繋げる等、意見を反映しています。園芸や物品発注等の担当職員からの意見が出されたり、年2回の面談でも意見や思いを聞いています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	キャリアパス制度を活用し、年に2回の面談を行い、一定の力量があると評価された職員は手当が出ています。勤務状況は、偏りがないように注意し年に一回のリフレッシュ休暇もある。昨年度よりライフワークバランス休暇も出来るようになった。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年に一回の力量評価(キャリアパスも兼ねている)で職員の力量を把握し、法人内外の研修に参加出来るように勤務を調整している。		

洛和グループホーム瀬田 (2階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修等に参加し、交流の機会を持ち他事業所との関わり・意見交換を行っている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時にアセスメントシートの記入やご家族からの相談・情報から基礎を作り、ご本人が困っていることなど見かけたら出来るだけ早急に対応するよう、職員全体が変化を見逃さないように意識している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所時や訪問時に出来るだけご本人の情報をいただけるよう声かけを行い、雑談も取り入れ話しやすい意識を持っていただけるよう勤めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族様より情報を・訪問した相談からの情報・医療からの情報を基礎にし、日々変化がみられるようなら記録に記入し、そのとき一番必要なことは何かをスタッフが気付けるようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	出来ることはしてもらい、出来ないことなどの部分を助けるればできるようになるのかを念頭に持ち、関わる。また、一緒に日常生活を送る中で利用者様から教えて貰ったり助けて貰ったりし、互いに支えあう関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員・家族様・主治医・看護師がチームとなり、利用者様一人一人を支えていけるように、家族様の面会などで話す時間を持ち相談をしたりすることで、皆で支えあって暮らしていけるようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会などで来ていただく際はプライバシーの観点からもキーパーソンに連絡確認を取っているが、概ね自由に面会していただいている。	以前近所に住んでいた知人や孫、親戚等の来訪時には居室やリビングへ案内し椅子やお茶を用意してゆっくり過ごしてもらえよう配慮しています。職員と通い慣れた商店等への個別に出かけたり、家族と自宅や外食、墓参り等へ外出する際には日程調整や身支度、薬等の事前の準備を支援しています。自宅で宿泊する利用者もおり、出来る限り馴染みの関係が途切れないよう支援に努めています。	

洛和グループホーム瀬田 (2階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士だけになる環境にならないようにし、関係が悪くなるようであれば職員がフォローに入ったり、気分転換にマンツーマンで散歩や喫茶、昼食など個別で話をする時間を持っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが終了しても気軽に立ち寄ってもらえ、困ったときには相談が出来る事業所でありたいと考えている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人やご家族の希望意向を伺っている。センター方式C-1-2を活用しミーティングで話し合い思いを尊重できるよう支援している。	入居時に病院や施設等で面談し利用者や家族から生活歴や身体状況、趣味、嗜好、思いや意向等を聞きアセスメントシートに記載し職員間で共有しています。入居後は利用者との日々の会話で思いや希望を聞き、把握困難な場合は様子や表情から汲み取ったり、家族にも相談しカンファレンスにて本人本位に検討し思いや意向の把握に努めています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	可能な限り家族様に伺いながら、ご利用以前の生活や様子、思いを聞かせて頂くよう、努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	状態の変化や関わった際の表情・感情など日々の様子を記録に残し、把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人の思い、家族の思いを踏まえ、主治医、看護師にも意見を求めたうえで月1回カンファレンスを開き計画を見直したりカンファレンスを開いている。変化がある場合はその時にプランを変更している。	アセスメントや本人、家族の意向を基に作成した介護計画は3か月又は6か月で見直し、状態が安定している場合は1年毎の見直しを基本とし、利用者の状態に変化があれば随時見直しています。計画期間の中間でモニタリングを行い、見直し前には評価と再アセスメントを行いサービス担当者会議で検討し事前に聞いた利用者や家族、医師、看護師の意見を反映しています。日々の介護日誌は計画の実施状況を意識しながら記載しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアプランにそって記録しているが、それ以外でも気付いたこと等も記録に残しプラン見直し時に活かしている。		

洛和グループホーム瀬田 (2階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	可能な限り、個人の思いを尊重し、一人ひとりに合った支援を提供できるように努めている。以前にはご家族、本人希望で訪問マッサージの受け入れあり。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	散歩でのこどもたちへの声かけ。地元の小学生ダンスサークルのボランティア受け入れ一緒におやつを食べるなど地域の子供達との交流を行っている。昨年度より瀬田中学の職業体験で生徒を受け入れを実施している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	希望により、従来のかかりつけ医(往診・通院)や往診医などの御希望に沿うよう支援している。	入居時に今までのかかりつけ医を継続するかを選択してもらい、月2回の往診を受け継続している利用者もいます。協力医は月2回の往診があり、週1回訪問看護による健康管理を受け、緊急時は24時間対応で訪問看護師へ連絡し必要時協力医へ繋いでっています。専門医への受診は職員の対応を基本とし、利用者の希望や必要に応じて訪問歯科のケアや治療の他、訪問マッサージや訪問リハビリを受けている利用者もいます。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に1回看護師による健康管理をうけ、相談をしている。24時間連絡体制特変時も指示を仰げ、安心できる環境である。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院の相談員と連絡を取りあい、情報交換に努めている。また、お見舞いにいき、本人の状態を確認、看護師、相談員にも状態を確認、入院中のカンファレンスにも参加している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	必要性がみられた早い段階から医師、看護師、家族を交え話し合い、事業所のできる事を説明し、ご本人、家族の思いを伺い医師からも現状を伝え、納得を得た上でチームとして支援を行い始めている。	入居時に指針を基に重度化した際の事業所の対応について家族に説明し同意を得ています。重度化した際には医師から家族に説明してもらい再度意向を確認し家族や医師、看護師、職員で話し合い方針を決め支援しており、家族の頻回な面会や泊まりでの付き添い等の協力を得ることもあります。医師や看護師からアドバイスを受けたたり、法人の看取りに関する研修を職員代表が受け、事業所で内容を伝達し理解を深めています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全職員、2年に一回普通救命救急講習を受け、対応出来るようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回消防署と合同で、避難訓練を行っている。その他に、2ヶ月に1回防災についての訓練や勉強会を開き職員への意識向上につなげている。地域にも運営推進会議で伝えている。	年2回それぞれ昼夜を想定し、内1回は消防署立ち会いの下、通報や初期消火、利用者も参加して避難誘導等の訓練を実施し、年4回は自主的に訓練を行いコンセント廻りの埃の除去や防火設備の確認等を行っています。運営推進会議で訓練の報告をしたり、防災の日には実際に職員の連絡網を回し確認をしています。水やおかゆ、缶詰のパン、懐中電灯等を準備しています。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	トイレの声かけ等耳元で声かけを行い、自尊心に配慮している。利用者本人、御家族が不快にならないように言葉使いには気をつけている。申し送り時は、イニシャルを使用している。	法人の接遇マナーに関する研修に職員代表が参加し、事業所で内容を職員へ伝達しています。利用者に対し丁寧語を基本に苗字で言葉かけをしていますが、家族の了解の下、利用者にとって分かりやすい呼称で呼ぶこともあります。不適切な対応があればその都度管理者や職員同士でも注意し、希望に応じて入浴や排泄時の同性介助を行い、羞恥心にも配慮した支援に努めています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	洋服を職員と一緒に選んだり、献立を一緒に決めたりしている。また、二者択一で選びやすいようにし自己決定できるよう工夫している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者本意でケアを提供できるよう、どのように過ごしたいのか、伝えることができない利用者に関しては家族の意見求めるなどし希望を聞き対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎朝整容を鏡の前でゆっくりしていただいたり、衣類の汚れ・乱れも気をつけている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	その日にある材料から献立を決め、利用者と共に調理を行っている。また、季節の食材も取り入れ四季を感じていただけるような献立もしている。食器拭きも、皆で分担しながら行っている。	献立は当日材料を見て利用者の希望や季節の物も取り入れながら決めており、利用者にも下拵えや盛り付け等出来ることに携わってもらいながら作り、職員も一緒に食事を摂っています。蒸しパンや善哉等の手作りおやつを提供や、出前で寿司や弁当を取ったり、外食に出掛ける等食事が楽しみなものとなるよう工夫をしています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量などは毎回チェック表で確認。水分が少ないかたは記録に記入し把握している。朝食はご飯かパンなど希望にあわせて対応している。食事量が少ない方には主治医に相談し栄養補助食の提供やを毎朝納豆を食べていた方には習慣に応じ対応している。		

洛和グループホーム瀬田 (2階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	希望者は毎週1回、訪問歯科からの口腔ケアを受けている。その他毎日毎食後に口腔ケアを行っており、歯科衛生士の助言も受け出来ないところはお手伝いしている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	時間に合わせた声かけや、排泄パターンの確認を行っている。	座位の取れる方はトイレでの排泄を基本とし、利用者の排泄記録を取り排泄パターンを把握し、一人ひとりに合わせて声かけやトイレへの案内をしています。退院時におむつを使用していた方が紙パンツになる等排泄の状態が改善することもあります。利用者に応じた排泄用品の種類や支援方法等については、職員間で検討し排泄の自立に向けた支援を行っています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	ヤクルトを飲んだりしている。日々の散歩などで身体を動かせるように努めている。お腹が張って苦しいときなどはお腹を温めてマッサージをしたり個別に対応している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	2・3日に一回声かけを行い入浴しているが、希望があったときも対応出来る時は入っていただいている(夜間も含む)。お湯の量も本人の希望の湯量で入っていただいている。	入浴は2～3日に1回を基本に午後に入ってもらい、希望があれば回数を増やしたり午前中や21時までの入浴も可能です。入浴拒否が見られる場合は声をかける職員を代えたり日時を変える等の工夫をすることで無理のないように入浴してもらっています。好みのボディソープ等を持ち込む利用者もおり、入浴剤を使用したりゆず湯や菖蒲湯を行い、1人ずつ会話も楽しみながらゆっくり入浴してもらっています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	概ね安眠されているが、眠れないときなどはホットミルクを提供したり、室温調整を行う。質のよい睡眠に向け、日中も活動的に動ける支援を意識している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	1日分の薬準備時に、薬説明書と照らし合わせ確認している。また、薬剤師・医療関係者にも聞き易い関係性が築けている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	お手伝いにやりがいをもたれていたり、これは自分の仕事と役割を持っておられる方も居る。一人ひとりの楽しみ・やりがいを意識し支援していく。体調に合わせて全員が何かしら楽しみ・張り合いが持てるように支援している。		

洛和グループホーム瀬田 (2階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	職員の人員によりその日に必ずとはいけないのが現状だが、いけるときに外食、喫茶の希望等は個別で対応出来るように努めている。行事計画に個別ケアを企画し年に1回は好きなところに出かけられるよう支援している。	毎日散歩に出掛けており、時にはおやつ等の買い物に行くこともあります。職員と個別で博物館や苺狩りに行ったり季節に応じて初詣や桜の花見、紅葉狩り等に出掛けています。敬老会では家族と一緒にホテルで食事会をする等出来る限り外出する機会を多く持てるように支援しています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の管理はホームにて行っているが、御家族様確認の元、ご自身で持っておられる方も居る。自身の財布から買い物に出かけた際払われることもある		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	郵便が届いた時は、確認後代読したりお渡ししたりしている。電話口でご利用者と変わりご家族とお話ししていただいたりしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	南向きのベランダの為、まぶしくないよう注意しているが開放感がある。また、エアコンの風が直接当たらないように風除けを使用している。季節の花も、できるだけフロア内に飾るよう意識している。室内の飾りも利用者と共に作り季節感のある飾りを飾っている。	フロアや廊下に生花や習字、利用者と職員で毎月作った貼り絵等を飾り温かい雰囲気作りをしています。テーブルや椅子は利用者同士の相性を考慮し配置し、温湿度計を設置して利用者の体感に留意しながら温度を調整しています。ゆっくり過ごせるようにソファを多く置き、毎日利用者も出来ることに携わりながら換気や掃除を行い快適に過ごせる共有空間を作っています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	TV前のソファでゆっくり寛がれたり、自席で仲の良い方とお話しされたりと、思い思いに過ごせるようにしている。廊下にもソファを設置しひとりで過ごせる場所も作っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具を持ち込まれたり、仏壇や家族写真を飾られたりと御本人が落ち着く環境作りを行っている。	入居時に馴染みの物を持ち込んでもらうように伝え、テレビや棚、机、椅子、家族の写真、仏壇等を持参し配置は家族が行い入居後の利用者の生活状況を見て家族に相談しながら変更することもあります。利用者自作の人形やラジカセ等を持ってきている方もいます。毎日換気や清掃を行い、希望により布団を敷いて休むことも可能で快適に過ごせる居室となるよう配慮しています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリー設計であり、入居者目線にカレンダーや時計がすぐに見れるように設置したりしている。本や新聞が自由に手に取れるところにおいている。必要に応じて夜間でも安全に移動できるように足元灯を使用している。		